

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501939		
法人名	合資会社 三重福祉会		
事業所名	グループホーム白山苑		
所在地	三重県津市白山町南出954		
自己評価作成日	令和4年11月30日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470501939-00&ServiceCd=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和4年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経歴や人生経験など入居者様によって様々である為、職員は利用者様1人1人のお話に耳を傾け、苑での生活を楽しく過ごしていただけるよう、努めることをモットーにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外部との触れ合いが困難になっているが、この事業所では設置以来の関わりも長く、地域に溶け込んでいて、それは事業所への野菜類の寄贈とか利用者への見守りや支援などにも現れている。また、運営推進会議が定期的開催され、事業所の報告に対し地域の関係者とも活発に意見交換がなされている。3年前から外国人介護実習生を受け入れているが、実習生自身が日本語に堪能になったばかりでなく、介護技術を着実に身に付けて事業所の有力な要員に育っており、事業所としての教育の成果であると思われる。そしてどのような利用者も見放さず受け入れて、職員が力を合わせ根気よく対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社(三重福祉会)と職員で考えた白山苑の理念を各ユニットに掲示し、実践に努めています。	法人の理念「人生の半分は自分のために、後の半分は人のために」を基礎にして、事業所の理念「地域のひと協力し、思いやりで、共に明るく暮せる」を玄関先に掲げて、職員会議の度に確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	世間のコロナ感染症拡大に伴い、実施出来ませんでした。しかしながら少なからず交流可能な地域柄であり、苑を出れば、周辺を散歩している方もいらっやいます。利用者様と地域の方々双方に刺激があればと考えています。	事業所として自治会に加入している。以前は敬老会が案内されたが、今は実施されてない。コロナ禍で自治会とふれあえなかったが、最近少しずつ緩めている。地域住民から野菜が寄贈されたり、散歩に出た利用者がまごついていると住民が送ってきてくれたりする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	世間のコロナ感染症拡大に伴い、実施出来なかった時期もありますが、中学生の職場体験受入れなど、交流の機会を儲けようと、常に意識しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換し、苑のサービス向上に結びつけられたと思います。9月に関しては世間のコロナ感染症拡大に伴い開催できませんでしたが、電話を活用し、家族様などへ連絡をしました。	市と相談の上、会議は実施してきたが、9月は対面でできず書面を参加者に送付した。ヒヤリハットに対する意見交換が多く、車椅子から落ちる例や服薬ができず吐き出す例で、介護を知らない委員から素朴な意見が出て説明し理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	面談出来ない際は電話を有効活用し、情報共有などに努めています。	市への相談事があれば白山総合支所や市本庁に出かけている。制度上の問題やコロナ対策は主に法人が対応しており、事業所内に陽性者が出たときは市からの援助物資がすぐに届いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マスク、手洗いなど感染防止に気を配り、職員が集まって、虐待身体拘束に関しての話し合いを行っています。	拘束防止委員会は法人で設置しており、毎月の代表者会議で拘束防止や感染防止が話し合われている。事業所の職員会議でその報告や意見交換をして、その結果は記録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝の申し送りの時やカンファレンスの時に虐待防止について話し合いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マスクをして職員同士の間隔を取り、権利擁護や後見人制度について話し合い、情報共有し、個々の知識・能力向上に努め、活用できるよう実践しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項の説明を十分に行い、疑問点の説明や利用者様・家族様の不安等を和らげ、納得いただいたうえで契約締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見や要望などを入れてもらえるようにしている。それらを集約し、話し合いを行い、改善できるものがあれば改善に取り組んでいます。	家族が来訪されたら窓越し面会をしてもらっており、面会は自由にしている。利用者には何か変化があれば必ず家族に電話し、意見交換している。遠方は千葉や北海道の家族もあり、電話連絡にならざるを得ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見箱を設置しており、匿名で意見を投函できる様にしている。内容に関し代表者、管理者、職員で話し合い全員が納得するまで意見交換しています。	月1回の職員会議と、毎朝夕の申し送りでも話し合っている。朝食時間が何故か早まり朝6時30分になり職員負担が重いので、話合って朝食8時前にした。予算を伴う改善要望は法人本部へ連絡している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場に顔を出し、見学。職員や利用者様と会話をするなどしてコミュニケーションを図っています。また改善点など提案し、現場の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉の勉強、講習に参加し、受験していただける様に介護福祉の講習のパンフレットを配布して受講、受験を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内での交流や勉強会を実施しています。今後は世間のコロナ感染状況によりませんが、外部での講習などに参加していただく機会の提供を検討中です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と面談し、困っていることや不安なことを聞き取り。またマスクをしていただき、施設見学や施設の生活における要望をお聞きし、サービス担当者会議で話し合い、ケアプランに反映しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問などをして話をお聞きしたうえで、施設見学をしていただき、不安な点や要望などを再度確認。サービス担当者会議で話し合い、ケアプランに反映しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の身体状況を確認すると共にご家族様の意向と要望を確認し、アドバイスなどを行っています。必要があればその他の介護施設、保健施設の入居申込を勧めさせていただきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や台所での調理の味見をしていただいたり、洗濯物を干す手伝いやおしぼり、清拭タオルを畳んでいただくなど少しでも日常的な生活を過ごしていただけるよう取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様から色々な訴えをお聞きし、それに対してご家族様と話をして、利用者様に一番良い方法を模索しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と通院で外出する以外、可能な限り外出は控えていただく様、ご家族様にご依頼しています。ただし職員は地域の者が多く、利用者様とは日常的に地域の話で盛り上がるなどしています。	コロナ禍のため外出は控えざるを得ない。しかし利用者も職員も近隣地域に関わりある人が多く、祭りや習慣、昔話等で盛り上がる人が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないよう職員が声かけし、ゲームなど職員も一緒に参加したり、利用者様同士の関わり合いを持っていただくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所されても、その後の様子などを伺ったり、必要に応じて相談させていただいています。お知り合いの利用者様の紹介をいただけることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、ご家族様からの要望や意向をプラン作成前に伺い、プランに反映させています。またユニット会議などで都度、確認し合い、良い支援に結びつけるよう努めています。	要望・意見等があれば記録し、ケアプランに反映させている。家に帰りたという言葉がよく出るが、家族が来て話していると、帰る気持はすっかり忘れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時、家族様と面談し、様々な情報をいただき、フェースシートに反映させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、家族様との面談時、心身状態を伺ったり、介護保険の認定にかかわる調査票、主治医の意見書など資料を事前にいただき、アセスメント表に反映させています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、ユニット会議を行い、必要時にはアセスメントを行っています。特に問題がなければ、サービス担当者会議を行い、ケアプランを作成しています。	モニタリングは毎月のユニット会議で職員の意見から確認している。アセスメントは年1回及び退院時に必ず確認している。アセスメント表は救急搬送や入院時に見てもらおうよう持参している。ケアプランは6カ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護内容を個別にケアプランに記録しています。また朝、夕の申し送り時に、情報の共有。3ヶ月に1度、ケアプランの見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族様の状況に応じ、病院受診への送迎などには付き添い、施設として可能な限りの支援は行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設近隣の野菜やお菓子販売所の前にある花壇に利用者様と一緒に見に行くなどしています。世間のコロナ感染症状況が更に落ち着けば、ボランティアの方をお呼びし、歌や踊りなどを利用者様と共に観賞するなど計画しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、協力医から往診に来ていただいています。また利用者様の身体状況に変化が見られた場合は、ご家族様に連絡し、受診往診などの承諾を得たうえで診察していただくなど、家族様との連携も心掛けています。	利用者はみな、協力医に受診しているが、整形等の専門医には家族が同行している。家族が来れない時は職員が同伴するが、同伴費用は有料である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様のバイタルチェック表に記載してある情報をおかかりつけのクリニックにFAXで送ったり、往診時も看護師の方に再度見てもらって助言してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、治療経過などを家族様やケアワーカーと電話で聞き取りしています。また病院に行き、看護師やケアワーカーに退院後の相談を行い、円滑に退院できるような配慮を心掛けています。緊急搬送は今年度2回ありました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約前に家族様に重度化した場合、施設で対応できること、できないことを十分に説明。終末期に対しての希望をお聞きし、主治医・家族様と話し合いを行い、他の医療機関を紹介していただいたり、他の介護施設に入所できるように声掛けています。	終末期対応は以前からお断りしている。協力医のクリニックは夜間、土日は医師不在である。家族には入居時に口頭で説明している。病状の進行等が予想されると、看護師が早めに病状や施設へ移送等を説明している。その人の症状と事前の対応に心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練に消防署職員様に参加いただき、訓練を受けています。応急手当や初期対応の訓練は現状、不足している点もあり、今後も職員個人個人の技術、知識共にスキルアップしていく必要があります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は消防署職員様に参加いただき、訓練を受けています。グループホームの観点から万一の際は職員全員が利用者様の安全を第一に考え、行動する意識付けは都度、必要であると考えています。自身避難訓練なども実施しています。	本年は4月と10月に総合防災訓練をした。夜間通報訓練をしたが、職員が戸惑い違うボタンを押してしまったり、車いすを押して裏の竹藪まで行ったが、簡単ではなく職員は苦勞した。救命救急訓練はしていない。	実際に事件・事故が生じたら一人でもけが人や死者が出ないように、日頃の訓練が大切だと言われている。訓練時の不十分さを検証し、救命救急を含めて訓練を一層充実強化されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室でオムツ交換を行う際、居室をノックしてから入室し、ドアを閉めてから声掛けしてからオムツ交換をしています。またトイレ誘導を行う際には周囲の人にわからないように声掛けするなど配慮しています。	プライバシーへの配慮は日頃から注意しているが、トイレ使用時のカーテン引きが守られない時があるので、今後も注意を喚起したい。不用意な情報漏らしはない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様ご自身で服を選んでいただいたり、トイレや起床、就寝を自発的にしていただけるように声掛けしています。基本的にご自身で決めていただいてから介助を行うよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例として月1度のレクリエーションを行う際、利用者様の考えお聞きしたうえで参加の可否を取っています。また掃除、散歩、昼寝をされたい方はしていただき、常に利用者様の希望や個々のペースに合わせて支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は利用者様ご自身で選んでいただいたり、施設に美容院の方がみえた際はご自身の要望を伝えていただくなどしています。その際に職員が間に入り、パイプの役割を果たすよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が進むように材料の色どりに気を配っています。また片付けやお膳を拭いてもらったりするなど、利用者様が日常の生活を送っていただけるよう、気配りをしています。	食材はメニュー付きで業者から取り寄せ、事業所で調理しており、利用者はほぼ完食している。おやつや誕生会等は時に手作りしている。また、今はできないが、出前や外食もしたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の嚥下機能に応じた食事形態(普通食、全粥、一口大、刻み、トロミ付き、ミキサー食)を提供しています。お茶、水などにトロミをつけて飲んでいただく時もあり、水分を取りたがらない方には1日数回に分けて飲んでいただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、介助時に歯みがきをしていただいている。就寝時には義歯を洗浄液につけて寝ていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個別にトイレの声掛けを行ったり、トイレの移動、移乗介助などの支援を行っています。	排泄が自立しているのは3名、大部分がリハビリパンツ使用である。リハビリン使用でも自分でトイレに行く人が3名である。多くは夜はおむつに替えている。排泄チェックするが大便が出たかどうか覚えておらず、確認がむずかしい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類を多めに摂取していただいたり、水分を多めに摂取していただくなど工夫をしています。また歩ける方は歩いていただいたり、体操にも参加していただくなどしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の要望に沿って入浴していただけるよう準備をしています。また入浴拒否があった場合、入浴していただく曜日を変更するなどしています。	週2回の入浴を基本にしている。嫌がる人が多いが、入れば気持ちがいいので入ると出てこないことが多い。夏の汗や便の汚れはシャワーで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特には決めておらず、眠りたい時に寝ていただいています。昼寝をされたい時は基本的に自由にしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品情報ファイルがあり、常に職員が確認できるようにしており、服薬の見守り、服薬の介助、確認を行っています。また薬の変更があれば申し送りで報告し、様子観察、異常があれば主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割作りをし、台所のお手伝いや、花の水やりなどをしていただくなど支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	世間のコロナ感染症状況や職員の数などの要因から利用者様全てのご希望を叶えることは現実的に困難であるが、新年の初詣に出かけたり、可能な限りの支援を行うよう努めています。	コロナ禍で事業所の外出が困難になっている。近くの散歩には出るが、年々重度化しており散歩に出られる利用者が少なくなっている。本年の春には車を借りて久しぶりに花見に出かけた。家族によっては自宅に連れていくこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、家族様のご依頼があった場合は現金をお預かりし、買い物などがあれば購入するお手伝いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様などに電話をしたいとの要望があった場合、電話をしていただいています。また利用者様によってはご自身で電話が困難な方もみえる為、お手伝いをさせていただくこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はバリアフリーで廊下、トイレ、浴室には手すりがついています。建物及び庭は広めで利用者様が歩くなど運動出来る環境です。建物も比較的に日当たりがよく、利用者様がのんびりと過ごしていただける環境になっています。	昼間はみなぎホールに出て塗り絵をしたり、黙って座り込んでいたり、自分なりの独自性に浸っている。比較的静かな雰囲気であるが、黙っていてもそれぞれが支え合って、誰かがふらつくと手を差し伸べたりする。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分のフロアにはソファなどが置いてあり、自由に利用していただき、利用者様同士や職員とのコミュニケーションを図れるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビが置いてある部屋があり、テレビを見たい利用者様はご自身の意思で見ることが出来るので、楽しんでいただいています。また居室は個室になっており、プライバシーが守られています。	部屋には各自に使い慣れた調度品を持ち込んでいる。夏冬の衣替えは家族に管理してもらうが、遠方の場合できないので事業所が預かっている。壁紙はむしりとりてしまい、ベッドは横倒してしまっている、こだわりが強い利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアに名札がかけてあり、トイレや浴室にも分かるように表札をかけてあります。安全かつ可能な限り自立した生活を送っていただけるよう努めています。		